るようになった。移転前の飽和状態を思うと隔世の感があるが、油断は禁物、新館の書庫が早くも注意信号をちらつかせている。しかし現在の館は一時的のものであるので、目下図書館専用の独立の建物を計画中である。そして現に大増築中の附属病院完成の暁には引きつづき建築にとりかかる予定である。

職員は館長を加えて 8 名（内司書資格者 4 名）之が昼間は前記 3 ケ所と旧館にちらばり、夕方からは交代で時間外勤務に服する一平日 1 時間半、土曜日 2 時間）。うなぎ昇りの複写に追われたり結構忙がしい毎日である。

（関口静子 記）

（中庭より写す）

◀資料紹介▶ 次頁より続く

“Science Citation Index”

与えられていない

- 6) 活字が細か過ぎて判読しにくい
- 7) 非常に高価である。(Set Price : \$ 700)

結論としては、新しいタイプのしかも自然科学全分野にまたがる 140 万もの Citation の索引として、医学図書館員も熟知しておくべきで、とくに文献探索を行なう場合には、従来の索引・抄録類と平行させて使用すると有効であろう。

しかし高価なものだから、各館における必要の程度のほかに、1964 年以降継続する索引である点も考慮に入れて購入の是非を決定した方がよい。なお、この索引の有用性の証明には、ある程度の時間の経過も必要である。

—1964 年版—

1961 年の索引と大体同じ型式をとるが、索引の時間的遅れを少なくするために、1962・1963 の 2 年分はトバして 1964 年度の引用文献の索引として、季刊で出された。

収録の基礎となった雑誌 source journal (SJ) の数は 1961 年の場合と余り変らないが、その種類は、前回の生物学・医学偏重を改め、自然科学全分野から平均して選ぶ努力がなされている。

原資料として使用された SJ と特許文献のリストのあとに、被引用文献 reference article (RA) の著者のアルファベット順に配列された索引本体が続く。RA を載せている雑誌の類は年間約 2 万種にも及ぶものと予想されている。そのほか特許文献も数多く索引してある。

RA を抜き出す基となった SJ に載せられた文献 source article (SA) の著者名索引は“Source Index”として、巻を別にして出版されており、この初めの部分は索引本体の場合同様、SJ と特許文献のリストになっている。

1964 年の Source Index から SA に論文題目がつくようになったのは、文献の主題内容を知る手懸りとなり、1961 年の文献にくらべて大きな進歩といえるが、できれば索引本体の RA と SA にも、論文題目が判るような手段を講じてほしいものである。

《資料紹介》

“Science Citation Index”

AN INTERDISCIPLINARY
INDEX TO THE LITERA-
TURE OF SCIENCE

—1961 及び 1964 年版—

津 田 良 成*

—1961 年版—

Citation index とは、引用文献の便覧みたいなものだと言われている。従来の書誌や索引類とは全く異なるタイプの索引で、法律の Shepard's Index の型式を自然科学の分野に取り入れたものである (1963 年刊)。この索引にさき駆けては、Genetic Citation Index が実験的に出版されている。

特定の原論文 reference article が誰によって、何という資料に引用されたかを調べることができるばかりでなく、一種の著者名による書誌としても利用し得る。ことに特定の理論だとか、新事実として問題になったりした事柄などが、その後どのように発展したかを調べたり、総説を書いたりする時に役立つ。

Current Contents, Index Chemicus 等を出版している米国の Institute for Scientific Information 所長, E. Garfield 博士が, National Science Foundation と National Institutes of Health とから資金の援助を受けて出版に踏み切った索引で, 全 5 巻, 2600 頁を超えている。

この 1961 年度の索引は同年中に出版された自然科学の雑誌から 613 種を源雑誌 source journal として選び出し, それに含まれた 10 万 2 千の論文と, その論文に引用された 89 万の文献を網羅している。また第 1 巻には, 源雑誌の略名リスト, 正式の誌名リスト, それ

に原論文を引用した著者の索引も含まれる。

本体は, 著者のアルファベット順に配列した原論文の下に, 引用した著者名の ABC 順に文献があげられている。

構成は単純で, 実際に研究者が文献を探す時によく行なう, 引用文献を順次に追っていく方法にピッタリ適応した索引ともいえる。

使用法は, まず一つの論文を知っていて, これを起点としてその原論文 reference article を見つけてゆく。従来の索引誌や書誌とは主題へのアプローチの仕方が全く異なるため, その代用につかうことはできないが, 今までの索引では関係づけて見つけ出すのが困難なほどの関連文献まで探し得る便利な面を持っている。

この Science Citation Index, 1961 の長所もしくは短所と思われる点をあげると, まず利点としては,

- 1) 専門分野の用語の知識なしに使用できる
- 2) 原論文と引用した論文とを関連させて, 探索範囲を次から次へと広げることが可能
- 3) 自然科学各分野間の障壁を感じないで, 諸分野にまたがる関連文献を探すことができる
- 4) 源雑誌の出版年より古いという点を除けば, 含まれる文献に年代的制限がない
- 5) 引用した文献の有無・多少で, ある程度原論文の価値を判断できる

欠点としては,

- 1) 主題による収録範囲がハッキリしない
- 2) 引用され方に種々の条件が考えられ, 原論文とこれを引用した論文とは必ずしも主題が一致しない
- 3) 文献を探すのには, 起点となる原論文を知っていなければならない
- 4) 論文の題名が示されていない
- 5) 雑誌名・書名などに略名が用いてあり, 原論文の場合には, その正式誌名リストが

(以下, 前頁下段へ続く)

* Yoshinari TSUDA, 慶大医学図書館